



県教育庁総務福利課教育DX推進室長
江畑 知宏 さん

近年、情報技術は急激な進展を遂げ、私たちの生活に浸透し、子供たちを取り巻く環境は劇的に変化しています。高校生ともなればICT機器を身近なモノとして活用しますが、ICT教育を受けたことのない親世代は技術進化についていけず、戸惑うケースも少なくないのでは？

学校では「ICT教育」がどのように展開されているのでしょうか。県教育庁総務福利課教育DX推進室長の江畑知宏さんに、お話を伺いました。

生徒たちは、小学生の頃からICT教育を受けています。高校では、特にとどのような力を身に付けさせようとしていますか。

小中学校で培ったICT活用用の基礎を土台に、高校でも「様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決する力」や「情報を再構成するなどして新たな価値を創造する力」の育成が求められています。

教科「情報」を中心に社会の様々なデータの整理・整形・分析などや、その結果を考察する学習活動を通して、AIによ

そのような力は、将来どのような職業に就いても必要となる基礎的な力です。膨大な情報の中から必要な情報を素早く見

る画像認識などを活用した様々な製品やサービスが開発されたり、新たな知見が生み出されたりしていることを理解し、データに基づいて科学的に考えることにより問題解決に取り組む力を育成します。

そのような力は、将来どのような職業に就いても必要となる基礎的な力です。膨大な情報の中から必要な情報を素早く見

る画像認識などを活用した様々な製品やサービスが開発されたり、新たな知見が生み出されたりしていることを理解し、データに基づいて科学的に考えることにより問題解決に取り組む力を育成します。

対応など、指導する教員が支援を要する場面もあると考えています。そのため、教科「情報」の指導方法やICTの活用に関する研修機会の充実、実践事例の共有などを行うとともに、ICT支援員を活用しながら、教員の取組を支援しています。加えて、各学校のタブレット端末の活用状況を把握し、活用の向上が図られるよう支援・助言を行っています。

現在、県立高校では、タブレットは高校1年生用として県の備品を使い、2年生からは各自で購入ということになっていますが、今後整備について何らかの変更がありますか。

令和9年度からすべての学年において、個人で用意した端末を持ち込むこととしています。一方で、購入が困難な家庭に対して補助制度を設けています。また、家電量販店より安価に購入できる県立高校専用のECサイトを開設する予定です。このサイトでは文科省の基準を満たした学習者用端末が販売されるため、安心して選ぶことができます。詳細については今

後、学校を通じて案内いたしますので、端末購入の際は、ぜひ活用してください。

親や祖父母、ICTの使用による健康被害が気になります。

学校では、タブレット端末を使う際には、本を読むときと同じように、目を画面から30cm以上離すことや、30分に一回は遠くを見て目を休めることなど、目を大切にするように声掛けを行っています。ご家庭でも、寝る1時間前からはデジタル機器の利用を控えるなど、生徒と一緒に使用する時間や場所等のルールを設けていただくようお願いいたします。タブレット端末等の利便性を生かしつつ、生徒の健康を守るために、学校とご家庭で連携して見守っていきましょう。

あと、ネットトラブルや犯罪への巻き込み、個人情報流出なども気になります。

各学校においては、発達の段階に応じてトラブル事例を基にした学習で危険予測力を育成しています。家庭においては、生徒の利用を一時的に制限するのではなく、なぜ危険なのかを一緒に考える姿勢が大切です。また、利用時間などのルールを明確にし、守れた点を認める関わりが効果的です。困った時に安心して相談できる関係づくりを

心掛け、ICTを前向きに活用する力を育むことが重要なポイントです。

今後、県としてICT教育をさらに充実させるための施策があれば、教えてください。

教職員に対して、校務DXを推進することで、校務における事務処理等に要する時間を縮減し、縮減した時間を活用して教職員が自らのICT活用能力の向上に取り組める環境を整えます。それによって、生徒への指導等の充実につなげます。ちよつとした時間でICTやアプリの活用の仕方を学べる動画等を集めたポータルサイトを用意しました。教職員へのサポートを充実させることで、未来を生きる生徒の情報活用能力の育成を目指す。

指す一助となればと考えています。

取材を終えて

取材を通して、ICT教育とはタブレットを使いこなすことではなく、情報を適切に活用し、仲間と協力して課題を解決したり、新たな価値を生み出したりする力を育む教育だと感じました。一方で、健康への配慮やネットトラブル防止には家庭と学校との連携が欠かせません。教職員への支援や環境整備も進み、子供たちの学びを支える体制づくりが着実に進んでいます。保護者も子供と対話を重ね、ICTとのより良い付き合い方を考えていくことが大切ですね。



高校生によるプレゼン発表の様子(出水高校)